

生活単元学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金) 5校時
児 童 2名
指導者

1 単元名 「買い物しよう②」～商店に買い物に行こう～

2 単元設定の理由 (1) 児童について

略

2名の児童の実態に幅はあるが、A児は、移動の際などB児の行動を見てついて行ったり、B児は、A児の行動を待ってあげたりとお互いを学級の仲間として意識している様子が見られる。

保護者にアンケートを取り家庭での買い物の様子をきいたところ、2名とも買い物は好きで家族との買い物の経験はある。A児は、学校や家庭での生活の様子を見ても食べ物には強い興味がある。食べたい物を指差したりことばで伝えたりする様子も最近見られるようになってきている。B児は、言葉使いなどの課題はあるものの誰とでも積極的にコミュニケーションを取ることができる。地域社会の様々な人とかかわりをもつことやお金の意味を理解し一人で買い物をするこは、社会自立に向けて重要なニーズであると考ええる。

(2) 単元について

買い物は、家庭生活での経験も多く、児童たちにとって大変興味のある活動である。前回取り組んだ「買い物しよう①」では、学校近くの商店に出掛けどんな商品があるのか見学したり、自分たちで空き箱等を使って商品を準備し、客や店の人になって買い物のやり取りを模擬体験したりした。その中でA児は、店に入るとかごを取り、気に入った物をかごに入れレジに持って行くようになった。B児は、買い物に使う語形を覚え自分から適切な場面で使うようになった。また支払いでは、A児は大きい金額のお金を出しおつりをもらう、B児は金額に合うよう数えて支払いをするというやり方をそれぞれに学習した。そこで本単元「買い物しよう②」では、実際に学校近くの商店に買い物に行き、前単元で学習したことを実際の場面で生かしていきたい。前単元では交流学級の友達を店に招待するなど校内の友達や教師との関わりであったが、本単元では地域の人へと対人関係を広げていき、地域の中でもあいさつや適切な関わり方ができるように進めていきたい。単元の始めでは自分が欲しい物を買うことから取り組み、後半B児には「家族からのお使い」にも取り組ませるなど児童の実態に合わせ内容を発展させていくようにする。

(3) 指導について

本単元では、商店に買い物に行き、その活動を振り返るということを繰り返し取り組む。A児には、活動の意味が分かりやすいよう同じ流れを繰り返すことで定着を図っていく。教室での授業では、活動毎に場所を分け、今何をするのが理解できるようにする。またできるだけ視覚的な支援を心掛ける。それぞれのねらいとなっている部分では、時間をかけじっくり取り組ませたい。教師はできるだけ見守り、つまづいている時に支援するようにしたい。活動の様子は家庭にも伝え、一般化を図っていきたい。

3 単元の目標

- (1) 自分が欲しいものや家族から頼まれた物などを一人で選んで買うことができる。
- (2) 店の人へのあいさつややり取りが適切にできる。

4 指導計画 (全10時間)

| | | | |
|------------------------|---|--------------|-----------------------------|
| 商店に買い物に行こう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元を振り返る。 ・ 菅原商店のことを思い出す。 ・ 何を買いたいか発表し合う。 ・ 新しい語形「これでいいですか。」を確認する。 | 1 | |
| 自分の欲しい物を買おう | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の欲しい物を選ぶ。 ・ 支払いをする。 | 4 | 1時間 ずつ繰 り返す ↑↓ |
| 家族に頼まれた物を買おう * B児のみ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族に頼まれた物を確認する。 ・ 家族に頼まれた商品を選ぶ。 ・ 支払いをする。 | | |
| 活動の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物の様子をビデオで視聴する。 ・ 買い物の様子を振り返る。 ・ お店屋さんの模擬体験する。 | 4 (本時4/4) | |

5 児童の実態と期待する姿とその手立て

| | A児 | B児 |
|--------|---|--|
| 保護者の願い | 周りに迷惑をかけないことを身に付け、欲しい物を選んでカゴに入れる、物を買う時はお金を払うなど買い物のルールを少しずつ覚えて、買い物を楽しめるようになるといい。いずれは、一人で買い物できるようになるといい。 | 〇〇円以内という事。(食べたいおやつを選ぶと1000円以上になってしまうので、100円～200円までとか金額が分かればいい。) |
| 実態 | お店屋さんの模擬体験では、商品が空き箱であったため、欲しいというよりは叩き具合のいいものを選んでしたが、かごに商品を選んで入れレジに持って行くことができた。支払いでは、100円玉を出しておつりをもらうことができた。 | お金の種類は分からないが、数詞と対応させながら50円までの支払いができた。店の人や客になった時のやり取りに必要な語形が分かり大きい声で話すことができる。 |
| 期待する姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 欲しい商品を選びレジへ持って行く。 ・ 自分で財布からお金を出すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大体の金銭感覚が分かり、一人で支払いをする。 ・ 店の人へのあいさつややり取りを適切に行う。(困った時に「これでいいですか?」と聞くことができる) |
| 手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味を示した商品をかごに入れることを繰り返し取り組む。 ・ 活動の意味が分かりやすいよう視覚的な支援をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 金額を視覚的に示したヒントカードを用意する。 ・ 必要な語形を視覚的に提示する。 |

6 本児の指導

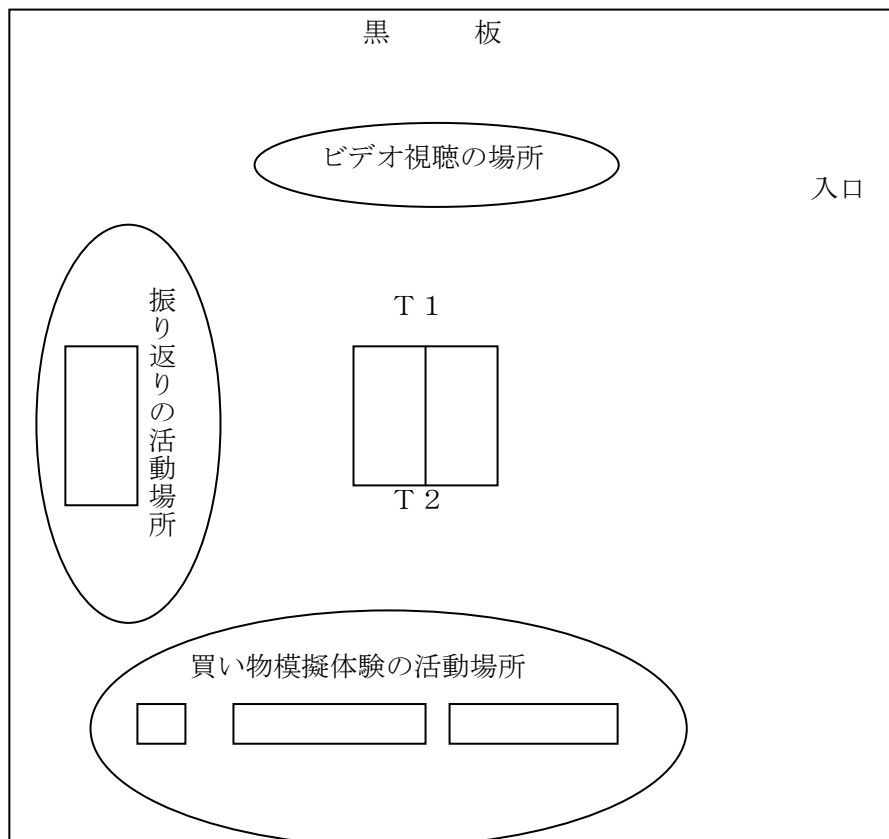
(1) ねらい

- ・商品を選び、一人で買い物をすることができたか振り返る。

(2) 個人のねらい

| | 学年 | 本時のねらい |
|----|----|--|
| A児 | | ・ 商店での買い物を何となく思い出しながら買い物の模擬体験をする。 |
| B児 | | ・ 頼まれた物を店の人と適切なやり取りをして買うことができたか振り返ることができる。 |

配置図



(3) 本時の展開

| | 学習内容及び活動 | 指導上の留意点および支援 | | 教材等 |
|-----------|---|---|---|--|
| | | A児 | B児 | |
| 導入 5分 | 1 あいさつ 2 学習内容の確認 ・ 前時を振り返る。 ・ 本時の学習内容を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正し、元気にあいさつできるよう指示する。 前時の学習が想起できるような発問をする。 T1が本時の学習について具体物や写真等を使いながら説明する。 | | 本時の活動 写真 |
| 展開 35分 | 3 ビデオを視聴する。 | ・ ビデオを見る場所への移動を促す。 | ・ ねらいとなっている活動場面では、声掛けをし、本児が意識できるようにする。 | テレビ |
| | 4 買い物の様子を振り返る。 <A児> ・ 買った物の空き箱を模造紙に張る。 <B児> ・ 買った物の空き箱を張り物の名前、値段を書く。 ・ ねらいが達成できたか振り返る。 | ・ 空き箱の感触を楽しんでいる場合は、しばらく見守った後、模造紙に張るようT2が支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 物の名前の記入の際は、文字が分からない様子が見られたらT1が文字カードを使って教える。 ビデオの様子を思い出し、ねらいが達成できたかT1と一緒に振り替える。達成できた場合は、シールを張る。 | 模造紙 |
| | 5 買い物の模擬体験をする。 ・ 商品の陳列 ・ 買い物 ・ 買った物の発表 ・ 商品の片づけ | ・ 店の人とお金のやり取り部分は、一人で行えるよう大きい金額を財布に入れ、それを出して釣りをもらう形にする。 | ・ 前時の買い物でうまくできなかった部分を確認しながら買物ができるように支援する。 | 財布 お金 ヒントカード レジ 受け皿 レジ袋 |
| 終末 5分 | 6 学習のまとめ 7 あいさつ | <ul style="list-style-type: none"> T1は、買い物の様子を振り返りながら活動できたか、また頑張っていた点など取り上げ賞賛する。 次回の単元では、バスに乗って大型スーパーに行くことを伝える。 姿勢を正し元気にあいさつできるよう指示する。 | | |

7 評価

- A児 ・ 商店での買い物を少しでも思い出しながら買い物の模擬体験をすることができたか。
B児 ・ 頼まれた物を店の人と適切なやり取りをして買うことができたか振り返ることができたか。